

人権・多様性について考える

11月26日(火)～12月11日(水)は校内人権週間となります。

人権は、女性の人権、子どもの人権、高齢者の人権、障がい者の人権、同和問題、外国人の人権、HIV感染者等の人権、ハンセン病患者・元患者等の人権、犯罪者被害等の人権、インターネット等による人権侵害、北朝鮮当局による拉致問題、性的マイノリティ(LGBT)者の人権などがあります。

これらの人権に関する問題では、偏見や差別によって苦しんでいる人が大勢います。そして、そんな偏見や差別に遭いながらも懸命に生きている人たちがいます。

偏見や差別が起きる原因・背景には、無理解、誤った知識、思い込み、勘違い、うわさ、外見、迷信等が挙げられます。誤った知識や思い込みが偏見につながり、やがて差別へとつながっていきます。したがって、私たちは人権課題について、正しい理解と知識を深めることが大切です。また、自分自身がかけがえのない存在であると同時に、周りにいる全ての人も自分と同じがかけがえのない存在であることを自覚し、人と接していくことが大切です。

人権週間を通して、「思いやりの心」「かけがえのない命」についてもう一度考えてみてください。



尊々我無

上記は、「トートゥガナシ」と読みます。鹿児島県最南端の島与論島の方言になり、この方言の意味は「ありがとう」となります。

「ありがとう」のことはどういったときに使われるでしょうか。自分ではなく、他の誰かのために行動を起こしたとき、「ありがとう」は使われます。

「ありがとう」と言われる行為は、我(自分)では無く、人のために何かをする尊い行為であるから、「尊々我無」と漢字で書くのだと、私は自分なりに解釈しています。

「資本主義の父」と呼ばれる渋沢栄一。

彼は、金銭的に苦しんでいる人たちをたくさん見てきた結果、ある共通点を見つけたそうです。それは何かというと、「自分のことばかり考えている」ということでした。

このとき、渋沢栄一は「おかしい」と思ったそうです。自分のことばかり考えていたら、真っ先に自分のことくらいは良くなりそうです。しかし、なぜか自分のことすら良くなり、生活がままならない。そこで渋沢栄一は「自分の利益ばかり考えるのではなく、他者を思いやるのが大事なのだ」と気づき、そのことを本『論語と算盤(そろばん)』に記したそうです。

多感な中学2年生の時期、自分、自分、自分と、自分のことばかり考えてしまいがちですが、「ありがとう」と言う、「ありがとう」と言われることをしてみてもう一度どうでしょうか。

